

【修士課程】

法律学・政治学専攻

[政治学専攻 授業科目一覧]

授業科目	単位	担当教員	備考	ページ
政治学特論Ⅰ・Ⅱ	各2	山本健太郎		59
政治学特論演習Ⅰ・Ⅱ	各4	山本健太郎		60
政治史特論BⅠ・Ⅱ	各2	松戸清裕		61
政治史特論演習BⅠ・Ⅱ	各4	松戸清裕		62
政治思想史特論Ⅰ・Ⅱ	各2	高橋義彦		63
政治思想史特論演習Ⅰ・Ⅱ	各4	高橋義彦		64
公共政策論特論Ⅰ・Ⅱ	各2	堀内匠		65
公共政策論特論演習Ⅰ・Ⅱ	各4	堀内匠		66
国際政治学特論Ⅰ・Ⅱ	各2	若月秀和		67
国際政治学特論演習Ⅰ・Ⅱ	各4	若月秀和		68
政治過程論特論Ⅰ・Ⅱ	各2	本田宏		69
政治過程論特論演習Ⅰ・Ⅱ	各4	本田宏		70
地方自治論特論Ⅰ・Ⅱ	各2	鹿谷雄一		71
地方自治論特論演習Ⅰ・Ⅱ	各4	鹿谷雄一		72
比較政治学特論Ⅰ・Ⅱ	各2	岩坂将充		73
比較政治学特論演習Ⅰ・Ⅱ	各4	岩坂将充		74
ジャーナリズム論特論Ⅰ・Ⅱ	各2	韓永學		75
ジャーナリズム論特論演習Ⅰ・Ⅱ	各4	韓永學		76
比較政治経済学特論Ⅰ・Ⅱ	各2	井上睦	前期集中講義	77
比較政治経済学特論演習Ⅰ・Ⅱ	各4	井上睦	前期集中講義	78

[政治学専攻 授業科目一覧]

授業科目	単位	担当教員	備考	ページ
地域研究特論 I・II	各 2	高 橋 美野梨	非 開 講	—
地域研究特論演習 I・II	各 4	高 橋 美野梨	非 開 講	—

■授業科目 政治学特論Ⅰ	■単位 2	■担当教員 山本 健太郎
<p>●授業の到達目標及びテーマ (授業の到達目標)日本を中心に、議員の政党間移動のメカニズムと政党システムへの影響について学ぶ。具体的な事例の分析を通じて、政治学の方法を帰納的に習得することを目的とする。 (テーマ)「現代日本の政治分析とその方法」</p>		
<p>●授業の概要 講義科目ではあるが、履修者は毎回指定された文献を読み、質問やコメントを述べるが必要になる。また、講義終了時に最終レポートの提出を求める。なお、「政治学特論Ⅱ」も受講することで、他の政権との比較を行えるようになり、それも本講義の主眼のひとつなので、合わせて履修するのが望ましい。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 政党間移動はなぜ起こるか</p> <p>第3回 政党間移動はどのように起こるか</p> <p>第4回 自民党分裂の研究(1):日本の諸研究</p> <p>第5回 自民党分裂の研究(2):海外の研究</p> <p>第6回 自民党分裂の研究(3):総括</p> <p>第7回 政界再編初期の研究動向(1):日本編</p> <p>第8回 政界再編初期の研究動向(2):海外編</p> <p>第9回 民主党の研究(1):日本編</p> <p>第10回 民主党の研究(2):海外編</p> <p>第11回 民主党の研究(3):検証編</p> <p>第12回 ネオ55年体制論(1):通史的理解</p> <p>第13回 ネオ55年体制論(2):批判的分析</p> <p>第14回 政界再編とは何か</p> <p>第15回 まとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 各回の指定文献を読み、自分なりの論点・コメントをまとめたうえで出席すること。</p>		
<p>●テキスト 初回講義時に指示する。</p>		
<p>●参考書 初回講義時に指示する。</p>		
<p>●学生に対する評価 毎回の発言内容(50%)とレポート(50%)を総合的に評価する。なお、評価は講義時に個別にコメントする。</p>		

■授業科目 政治学特論Ⅱ	■単位 2	■担当教員 山本 健太郎
<p>●授業の到達目標及びテーマ (授業の到達目標)海外を中心に、議員の政党間移動のメカニズムと政党システムへの影響について学ぶ。具体的な事例の分析を通じて、政治学の方法を帰納的に習得することを目的とする。 (テーマ)「政党間移動研究とその方法」</p>		
<p>●授業の概要 講義科目ではあるが、履修者は毎回指定された文献を読み、質問やコメントを述べるが必要になる。また、講義終了時に最終レポートの提出を求める。なお、「政治学特論Ⅰ」を受講することが前提の内容となっているので、合わせて履修するのが望ましい。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 アメリカの事例(1):先行研究</p> <p>第3回 アメリカの事例(2):理論</p> <p>第4回 アメリカの事例(3):事例前半</p> <p>第5回 アメリカの事例(4):事例後半</p> <p>第6回 ブラジルの事例</p> <p>第7回 ロシアの事例</p> <p>第8回 イタリアの事例</p> <p>第9回 韓国の事例</p> <p>第10回 比較の視座(1):理論編</p> <p>第11回 比較の視座(2):実証編</p> <p>第12回 比較の視座(3):日本との比較</p> <p>第13回 政党システムへの影響</p> <p>第14回 政党間移動と政党システム</p> <p>第15回 まとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 各回の指定文献を読み、自分なりの論点・コメントをまとめたうえで出席すること。</p>		
<p>●テキスト 初回講義時に指示する。</p>		
<p>●参考書 初回講義時に指示する。</p>		
<p>●学生に対する評価 毎回の発言内容(50%)とレポート(50%)を総合的に評価する。なお、評価は講義時に個別にコメントする。</p>		

■授業科目	■単位	■担当教員
政治学特論演習Ⅰ	4	山本 健太郎
●授業の到達目標及びテーマ (授業の到達目標) 現代(日本)政治に関する論文を書くことを念頭に、政治学の方法論について学び、テーマに合った方法論を確定させることを目指す。 (テーマ)「政治学の実証分析の方法論と選択」		
●授業の概要 政治学の方法論について書かれた本を足掛かりに、そこで紹介された実証論文についても合わせて検討することで、実証分析に役立つ方法論を習得する。		
●授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 政治学の方法分類:加藤淳子・境家史郎・山本健太郎編『政治学の方法』第1章の検討 第3回 定性分析の方法とは:『政治学の方法』第2章 第4回 定性分析のリサーチデザイン:ロバート・パットナム『哲学する民主主義』第1・2章 第5回 定性分析の実証部分:ロバート・パットナム『哲学する民主主義』第3章・第4章 第6回 定性分析の方法まとめ:ロバート・パットナム『哲学する民主主義』第5章・第6章 第7回 定量分析の方法とは:『政治学の方法』第3章の検討 第8回 定量分析のリサーチデザイン:川人貞史『日本の政党政治』第1章・第2章 第9回 定量分析の実証部分(1):川人貞史『日本の政党政治』第3章 第10回 定量分析の実証部分(2):川人貞史『日本の政党政治』第4章 第11回 定量分析の方法まとめ:川人貞史『日本の政党政治』第5章・第6章 第12回 フォーマルモデリングとは:『政治学の方法』第4章の検討 第13回 フォーマルモデリングのリサーチデザイン:トマス・シェリング『紛争の戦略』Ⅰ部 第14回 フォーマルモデリングの作り方(1):トマス・シェリング『紛争の戦略』Ⅱ部 第15回 フォーマルモデリングの作り方(2):トマス・シェリング『紛争の戦略』Ⅲ部 第16回 フォーマルモデリングまとめ:トマス・シェリング『紛争の戦略』Ⅳ部 第17回 混合の方法とは:『政治学の方法』第6章の検討 第18回 混合のリサーチデザイン:アレンド・レイプハルト『民主主義対民主主義』1-4章 第19回 混合の方法の実証部分(1):アレンド・レイプハルト『民主主義対民主主義』5から8章 第20回 混合の方法の実証部分(2):アレンド・レイプハルト『民主主義対民主主義』9から12章 第21回 混合の方法まとめ:アレンド・レイプハルト『民主主義対民主主義』13から17章 第22回 実験の方法とは:『政治学の方法』第5章の検討 第23回 定性分析の問題:キング・コヘイン・ヴァーバ『社会科学のリサーチデザイン』1章 第24回 定量分析の利点:キング・コヘイン・ヴァーバ『社会科学のリサーチデザイン』2章 第25回 定性か定量か:キング・コヘイン・ヴァーバ『社会科学のリサーチデザイン』3章 第26回 定性と定量の架橋:キング・コヘイン・ヴァーバ『社会科学のリサーチデザイン』4章 第27回 定量的定性分析(1):キング・コヘイン・ヴァーバ『社会科学のリサーチデザイン』5章 第28回 定量的定性分析(2):キング・コヘイン・ヴァーバ『社会科学のリサーチデザイン』6章 第29回 KKVの批判的検討 第30回 まとめ		
●準備学習の内容 各回の指定文献を読み、自分なりの論点・コメントをまとめたうえで出席すること。		
●テキスト 研究内容に応じて相談する。		
●参考書 加藤淳子・境家史郎・山本健太郎編『政治学の方法』有斐閣、2015年		
●学生に対する評価 毎回の発言内容で評価する(100%)。なお、評価は講義時に個別にコメントする。		

■授業科目	■単位	■担当教員
政治学特論演習Ⅱ	4	山本 健太郎
●授業の到達目標及びテーマ (授業の到達目標) 現代(日本)政治に関する論文を書くことを念頭に、近年の政治学の実証研究に実際に触れ、到達すべきレベルを確認するとともに、方法を習得することを目指す。 (テーマ)「政治学の実証分析の方法と実際」		
●授業の概要 日本をフィールドとした政治学の実証研究のうち、近年発表されたものに絞って検討し、目標とするべき最先端の研究に触れ、具体的な方法を習得する。なお、「政治学特論演習Ⅰ」で検討した方法論に沿って研究を取り上げるので、合わせて受講することが前提となる。		
●授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 質的研究のリサーチデザイン:木寺元『地方分権改革の政治学』序章・第1章 第3回 質的研究の先行研究整理:木寺元『地方分権の政治学』第2章 第4回 質的研究の実証(1):木寺元『地方分権の政治学』第3章 第5回 質的研究の実証(2):木寺元『地方分権の政治学』第4章 第6回 質的研究の利点と欠点:木寺元『地方分権の政治学』第5章・終章 第7回 量的研究のリサーチデザイン:砂原庸介『地方政府の民主主義』序章・第1章 第8回 量的研究の先行研究整理:砂原庸介『地方政府の民主主義』第2章 第9回 量的研究の実証(1)砂原庸介『地方政府の民主主義』第3・4章 第10回 量的研究の実証(2):砂原庸介『地方政府の民主主義』第5章 第11回 量的研究の利点と欠点:砂原庸介『地方政府の民主主義』第6章・終章 第12回 混合研究のリサーチデザイン:曾我謙悟・待鳥聡史『日本の地方政治』序章・第1章 第13回 混合研究の先行研究整理:曾我謙悟・待鳥聡史『日本の地方政治』第2章 第14回 混合研究の実証(1):曾我謙悟・待鳥聡史『日本の地方政治』第3・4章 第15回 混合研究の実証(2):曾我謙悟・待鳥聡史『日本の地方政治』第5章 第16回 混合研究の利点と欠点:曾我謙悟・待鳥聡史『日本の地方政治』第6章・終章 第17回 リサーチデザインの作り方:前田健太郎『市民を雇わない国家』序章・第1章 第18回 先行研究の整理の方法:前田健太郎『市民を雇わない国家』第2章 第19回 実証分析の実例(1):前田健太郎『市民を雇わない国家』第3・4章 第20回 実証分析の実例(2):前田健太郎『市民を雇わない国家』第5章 第21回 実証分析の実例(3):前田健太郎『市民を雇わない国家』第6章・第7章・終章 第22回 その他の研究のリサーチデザイン:大村華子『日本のマクロ政体』第1部 第23回 その他の研究の先行研究整理:大村華子『日本のマクロ政体』第2部 第24回 その他の研究における実証(1):大村華子『日本のマクロ政体』第3部前半 第25回 その他の研究における実証(2):大村華子『日本のマクロ政体』第3部後半 第26回 その他の研究における実証(3):大村華子『日本のマクロ政体』第4部 第27回 テーマの選び方と先行文献整理の方法(まとめ) 第28回 方法論の選び方 第29回 正しい実証分析とは 第30回 まとめ		
●準備学習の内容 各回の指定文献を読み、自分なりの論点・コメントをまとめたうえで出席すること。		
●テキスト 計画中に示した5冊(受講者の関心に応じ、入れ替えの可能性あり。詳細は初回開講時に指示する)。		
●参考書 初回開講時に指示する。		
●学生に対する評価 毎回の発言内容(50%)と論文(50%)で総合的に評価する。なお、評価は講義時に個別にコメントする。		

■授業科目 政治史特論B I	■単位 2	■担当教員 松戸 清裕
●授業の到達目標及びテーマ 修士論文を書くうえでの基礎能力・基礎知識を身につけることが目標となる。 歴史学の考え方を学ぶことを通じて政治史を学ぶ基礎を身につけることがテーマとなる。		
●授業の概要 遅塚忠躬『史学概論』を読み、歴史学の考え方について学ぶ。		
●授業計画 第1回 各回の計画と進め方の確認。 第2回 「はしがき」と「序論 史学概論の目的」を読む。 第3回 「第1章 歴史学の目的」の「第1節 歴史学の目的の三分区」と「第2節 三様の歴史学の相違点と相互関係」を読む。 第4回 「第1章 歴史学の目的」の「第3節 歴史学の目的と効用」と「第2章 歴史学の対象とその認識」の「第1節 人類の過去の文化」を読む。 第5回 「第2章 歴史学の対象とその認識」の「第2節 事実についての予備的考察」, 「第3節 事実の種類とそれぞれの性質」および「第4節 史料による事実の確認と復元」を読む。 第6回 「第2章 歴史学の対象とその認識」の「第5節 事実認識についての学界の論議」の前半を読む。 第7回 「第2章 歴史学の対象とその認識」の「第5節 事実認識についての学界の論議」の後半を読み、この節での主張について考える。 第8回 「第2章 歴史学の対象とその認識」の「第6節 事実認識の可能性と限界」を読む。 第9回 「第3章 歴史学の境界」の「第1節 歴史学とその周辺」と「第2節 歴史学と隣接諸科学」を読む。 第10回 「第3章 歴史学の境界」の「第3節 歴史的世界における事実と真実」と「第4節 歴史学と文学」を読む。 第11回 「第4章 歴史認識の基本的性格」の「第1節 歴史学の主観性と客観性」を読む。 第12回 「第4章 歴史認識の基本的性格」の「第2節 歴史認識の蓋然性と歴史の趨勢」と「第3節 歴史における因果関係と因果的必然性」を読む。 第13回 「第4章 歴史認識の基本的性格」の「第4節 歴史における偶然性と自由意志」と「第5節 歴史における相互連関の円環構造」を読む。 第14回 「第4章 歴史認識の基本的性格」の「第6節 歴史学の社会的責任」と「むすび ソフトな科学としての歴史学、およびその後」を読む。 第15回 本書全体を振り返って、歴史学の考え方について検討する。		
●準備学習の内容 各回の対象範囲を熟読し、自分なりの考えをまとめたうえで出席すること。		
●テキスト 遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会、2010年。		
●参考書 必要に応じて指示する。		
●学生に対する評価 毎回の発言内容で評価する（100%）。求めに応じて講評をおこなう。		

■授業科目 政治史特論B II	■単位 2	■担当教員 松戸 清裕
●授業の到達目標及びテーマ 比較の観点から歴史を検討することができるようになることが目標となる。 「現存した社会主義」に関する基本的な知識を確認し、世界史における「現存した社会主義」について検討することがテーマとなる。		
●授業の概要 塩川伸明『現存した社会主義』を読み、「現存した社会主義」について検討する。		
●授業計画 第1回 各回の計画や進め方の確認。 第2回 「はじめに」と「序章 対象および視角」を読む。 第3回 第1章「方法と枠組み」の「1 緒論」と「2 体制間比較」を読む。 第4回 第1章「方法と枠組み」の「3 社会主義諸国の比較」を読む。 第5回 第2章「社会主義体制の基本的特徴」の「1 経済体制」を読む。 第6回 第2章「社会主義体制の基本的特徴」の「2 政治体制」を読む。 第7回 第2章「社会主義体制の基本的特徴」の「3 時系列的変動」を読む。 第8回 第3章「各国の独自性・個性を規定する諸要因」の「1 文化としての『現存した社会主義』」を読む。 第9回 第3章「各国の独自性・個性を規定する諸要因」の「2 近代化と高度産業社会化」を読む。 第10回 第3章「各国の独自性・個性を規定する諸要因」の「3 国際的要因」を読む。 第11回 第4章「変動と体制転換」の「1 社会主義体制内での変化」を読む。 第12回 第4章「変動と体制転換」の「2 変動の拡大と体制転換の選択」を読む。 第13回 第5章「脱社会主義過程およびその展望」の「1 総論」と「2 経済体制移行」を読む。 第14回 第5章「脱社会主義過程およびその展望」の「3 政治体制の転換」と「4 国家のアイデンティティ」を読む。 第15回 第5章「脱社会主義過程およびその展望」の「5 小括」と終章「世界史の中の社会主義」を読む。		
●準備学習の内容 各回の対象範囲を熟読し、自分なりの評価をまとめたうえで出席すること。		
●テキスト 塩川伸明『現存した社会主義』勁草書房、1999年。		
●参考書 松戸清裕『ソ連史』ちくま新書、2011年。 松戸清裕『ソ連という実験 国家が管理する民主主義は可能か』筑摩選書、2017年。 松戸清裕責任編集『ロシア革命とソ連の世紀3 冷戦と平和共存』岩波書店、2017年。		
●学生に対する評価 毎回の発言内容で評価する（100%）。求めに応じて講評をおこなう。		

■授業科目	■単位	■担当教員
政治史特論演習 B I	4	松戸 清裕
<p>●授業の到達目標及びテーマ</p> <p>修士論文の大まかな主題を見出すことが目標となる。 現代ヨーロッパの政治史に関する修士論文を書くことを念頭に置き、基礎的かつ一般的な知識を身につけることがテーマとなる。</p>		
<p>●授業の概要</p> <p>毎回テーマを設定し、そのテーマに関して定評のある概説的な本または論文を読んで検討する。毎回、論点を提供する担当者を指定し、示された論点を中心に検討する。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 毎回のテーマと文献の確認。担当者の決定。 第2回 第一次世界大戦と帝国の危機 第3回 ロシア革命 第4回 ドイツ革命とワイマール体制の成立 第5回 ファシズム体制の成立（イタリア） 第6回 革命から権威主義体制の成立へ（ハンガリー） 第7回 「議会改革」（第一次大戦前後の時期のイギリス） 第8回 第三共和政の危機（フランス） 第9回 ワイマール体制の危機とナチ政権の成立 第10回 「強制的同質化」（ナチ体制の成立） 第11回 スターリン体制の成立(1)―党内論争― 第12回 スターリン体制の成立(2)―農業集団化と5ヵ年計画― 第13回 スターリン体制の成立(3)―1936年憲法とソヴェト型民主主義― 第14回 戦間期ヨーロッパの国際関係 第15回 宥和政策から第二次世界大戦へ 第16回 「大同盟」の成立 第17回 「民主主義の勝利」と「冷たい戦争」 第18回 第四共和政の成立（フランス） 第19回 戦後スターリン体制（ソ連） 第20回 東西ドイツの成立 第21回 「新路線」から「雪どけ」へ（ソ連と国際社会） 第22回 「アメリカ合衆国に追いつき、追い越す」（ソ連） 第23回 「ベルリンの壁」建設（東ドイツと国際社会） 第24回 資本主義の変容（福祉国家）(1)―イギリス― 第25回 資本主義の変容（福祉国家）(2)―フランス― 第26回 資本主義の変容（福祉国家）(3)―西ドイツ― 第27回 「デタント」から「新冷戦」へ 第28回 「東欧革命」と「東西冷戦終結」 第29回 ドイツ統一 第30回 冷戦後の世界</p>		
<p>●準備学習の内容</p> <p>各回の指定文献を熟読し、自分なりの評価をまとめたうえで出席すること。</p>		
<p>●テキスト</p> <p>テーマと担当者を決めたうえで、相談のうえ文献を決める。</p>		
<p>●参考書</p> <p>テーマ、担当者および扱う文献を決めたうえで、参考になる文献も紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価</p> <p>担当した回の論点整理の内容と、毎回の発言内容とに基づいて評価する（各50%）。求めに応じて講評をおこなう。</p>		

■授業科目	■単位	■担当教員
政治史特論演習 B II	4	松戸 清裕
<p>●授業の到達目標及びテーマ</p> <p>現代ヨーロッパの政治史に関する修士論文を書き上げることが目標となる。 研究史を整理すること、修士論文のテーマを決定すること、および論文執筆に関して学ぶことがテーマとなる。</p>		
<p>●授業の概要</p> <p>各自が関心のあるテーマについて専門的な文献を渉猟することでテーマを決定し、その後は研究史の整理を通じた論点の把握、史料の検討と論文の構成の検討を進めていく。歴史研究の論文を実質的に初めて書くことを念頭に置いて、歴史研究のあり方についても考えていく。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 問題関心の紹介と次回以降の進め方の確認。 第2回 E. H. カーク『歴史とは何か』について考える。 第3回 邦語の先行研究の確認(1)―概説的な研究について―。 第4回 小田中直樹『歴史学ってなんだ?』について考える。 第5回 邦語の先行研究の確認(2)―再度、概説的な研究について―。 第6回 溪内謙『現代史を学ぶ』について考える。 第7回 邦語の先行研究の確認(3)―専門研究について―。 第8回 小田中直樹『歴史学のアポリア』について考える。 第9回 邦語の先行研究の確認(4)―再度、専門研究について―。 第10回 西川正雄『現代史の読みかた』について考える。 第11回 修士論文のテーマの確認。 第12回 西川正雄他編『現代歴史学入門』について考える。 第13回 先行研究の整理(1)―邦語の研究について―。 第14回 塩川伸明『〈20世紀史〉を考える』について考える。 第15回 先行研究の整理(2)―英語の研究について―。 第16回 先行研究の整理(3)―対象とする国における研究について―。 第17回 先行研究の整理(4)―再度、対象とする国における研究について―。 第18回 修士論文のテーマと論点の再確認。 第19回 論文指導(1)―研究史を書く―。 第20回 論文指導(2)―再度、研究史を書く―。 第21回 論文指導(3)―テーマを研究史に位置づける―。 第22回 論文指導(4)―史料紹介―。 第23回 論文指導(5)―史料の検討―。 第24回 論文指導(6)―史料に基づく論点の検討―。 第25回 論文指導(7)―研究史と史料に基づく全体の構想の検討―。 第26回 論文指導(8)―再度、研究史と史料に基づく全体の構想の検討―。 第27回 論文指導(9)―事実立脚性についての最終確認―。 第28回 論文指導(10)―論拠となる事例の取捨選択についての最終確認―。 第29回 論文指導(11)―論理整合性についての最終確認―。 第30回 論文指導(12)―論文全体の最終確認―。</p>		
<p>●準備学習の内容</p> <p>文献を扱う回は、各回の指定文献を熟読し、自分なりの評価をまとめたうえで出席すること。 論文指導の回は、各自の研究と論文について十分に準備したうえで出席すること。</p>		
<p>●テキスト</p> <p>授業計画中に挙げた7冊。</p>		
<p>●参考書</p> <p>必要に応じて指示する。</p>		
<p>●学生に対する評価</p> <p>事前の準備と毎回の発言によって評価する（各50%）。求めに応じて講評をおこなう。</p>		

■授業科目 政治思想史特論 I	■単位 2	■担当教員 高橋 義彦
<p>●授業の到達目標及びテーマ 政治思想史を学ぶ上で必読文献である古典を読解することで、政治思想史に対する理解を深めること。ホッブズ、ロック、ルソーの思想について、大学院水準の議論が可能になるような知識を習得すること。政治思想史の古典を正確に読めるようになること。</p>		
<p>●授業の概要 近代政治思想の古典であるホッブズ『市民論』、『リヴァイアサン』、ロック『統治二論』、ルソー『社会契約論』の講読を行います。受講者には内容の要約並びに論点の提示をしてもらい、それを基に議論を行います。</p>		
<p>●授業計画 第1回 インTRODクシヨン——近代政治思想についての説明と担当決め 第2回 ホッブズ『市民論』より「自由」の読解 第3回 ホッブズ『市民論』より「命令権」の読解 第4回 ホッブズ『市民論』より「宗教」の読解 第5回 ホッブズ『リヴァイアサン』第一巻前半の読解 第6回 ホッブズ『リヴァイアサン』第一巻後半の読解 第7回 ホッブズ『リヴァイアサン』第二巻前半の読解 第8回 ホッブズ『リヴァイアサン』第二巻後半の読解 第9回 ロック『統治二論』前篇前半の読解 第10回 ロック『統治二論』前篇後半の読解 第11回 ロック『統治二論』後篇前半の読解 第12回 ロック『統治二論』後篇後半の読解 第13回 ルソー『社会契約論』第一章の読解 第14回 ルソー『社会契約論』第二章の読解 第15回 ルソー『社会契約論』第三・四章の読解</p>		
<p>●準備学習の内容 テキストを熟読して読書ノートを作成し、自分で読んだだけでは理解できなかった疑問点を整理すること（2時間程度）。</p>		
<p>●テキスト トマス・ホッブズ『市民論』（本田裕志訳、京都大学学術出版会、2008年）、『リヴァイアサン』（水田洋訳、岩波文庫、1954年）、ジョン・ロック『統治二論』（加藤節訳、岩波文庫、2010年）、ジャン・ジャック・ルソー『世界の名著・ルソー』（平岡昇編、中央公論社、1966年）。</p>		
<p>●参考書 堤林剣『政治思想史入門』（慶應義塾大学出版会、2016年）</p>		
<p>●学生に対する評価 担当回での報告（50%）、議論への参加度（50%）</p>		

■授業科目 政治思想史特論 II	■単位 2	■担当教員 高橋 義彦
<p>●授業の到達目標及びテーマ 戦間期のヨーロッパ各国の政治情勢、政治思想の内容を説明できるようになること。各国のファシズム運動の共通点と相違点を説明できるようになること。英語の研究文献を正確に読解できるようになること。</p>		
<p>●授業の概要 20世紀前半の世界を席卷した政治運動であるファシズムとは何だったのかの思想史的検討を行います。授業を通じ「ファシズム」という政治思想の定義を理解すると同時に、各国（特にドイツとオーストリア）におけるその内容の異同についての理解を深めることを目指します。比較ファシズム研究にかかわる英語文献をテキストに、受講者に内容の要約と論点の提示を行ってもらい、それに基づき議論を行います。</p>		
<p>●授業計画 第1回 インTRODクシヨン——テキストの説明と分担決め 第2回 理論編（一）Payne論文の読解 第3回 理論編（二）Andreski論文の読解 第4回 理論編（三）Milward論文の読解 第5回 理論編（四）Hagtvet論文の読解 第6回 理論編（五）Kuhnl論文の読解 第7回 理論編（六）Hagtvet and Rokkan論文の読解 第8回 理論編（七）Linz論文の読解 第9回 事例編（一）Betz論文の読解 第10回 事例編（二）Pauley論文の読解 第11回 事例編（三）Haag論文の読解 第12回 事例編（四）Rath and Schm論文の検討 第13回 事例編（五）Merkl論文の読解 第14回 事例編（六）Passchier論文の読解 第15回 事例編（七）Zipfel論文の読解</p>		
<p>●準備学習の内容 テキストを熟読して読書ノートを作成し、自分で読んだだけでは理解できなかった疑問点を整理すること。</p>		
<p>●テキスト Stein Ugelvik Larsen, Bernt Hagtvet, Jan Petter Myklebust, Gerhard Betz (ed.), Who were the Fascists: Social Roots of European Fascism, Columbia University Press, 1980.</p>		
<p>●参考書 特になし</p>		
<p>●学生に対する評価 担当回での報告（50%）、議論への参加度（50%）</p>		

■授業科目	■単位	■担当教員
政治思想史特論演習Ⅰ	4	高橋 義彦
<p>●授業の到達目標及びテーマ</p> <p>修士論文作成のために必要な先行研究の検討を行うこと。修士論文執筆のために基本的な知識を習得すること。</p>		
<p>●授業の概要</p> <p>修士論文執筆のための基本的文献の読解を行います。文献は受講者の修士論文のテーマにより決めます。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 修士論文構想検討 (一) 修論のテーマ 第2回 修士論文構想検討 (二) 先行研究の整理——日本語文献編 第3回 修士論文構想検討 (三) 先行研究の整理——外国語文献編 第4回 日本語先行研究の検討 (一) 全体にかかわる文献 第5回 日本語先行研究の検討 (二) 序章にかかわる文献 第6回 日本語先行研究の検討 (三) 第一章にかかわる文献 第7回 日本語先行研究の検討 (四) 第二章にかかわる文献 第8回 日本語先行研究の検討 (五) 第三章にかかわる文献 第9回 日本語先行研究の検討 (六) 第四章にかかわる文献 第10回 日本語先行研究の検討 (七) 第五章にかかわる文献 第11回 日本語先行研究の検討 (八) 先行研究の整理とその問題点の提示 第12回 外国語先行研究の検討 (一) 全体にかかわる文献 第13回 外国語先行研究の検討 (二) 序章にかかわる文献 第14回 外国語先行研究の検討 (三) 第一章にかかわる文献 第15回 外国語先行研究の検討 (四) 第二章にかかわる文献 第16回 外国語先行研究の検討 (五) 第三章にかかわる文献 第17回 外国語先行研究の検討 (六) 第四章にかかわる文献 第18回 外国語先行研究の検討 (七) 第五章にかかわる文献 第19回 外国語先行研究の検討 (八) 先行研究の整理とその問題点の提示 第20回 修士論文仮執筆 (一) 序章 第21回 修士論文仮執筆 (二) 第一章 第22回 修士論文仮執筆 (三) 第二章 第23回 修士論文仮執筆 (四) 第三章 第24回 修士論文仮執筆 (五) 第四章 第25回 修士論文仮執筆 (六) 第五章 第26回 修士論文仮執筆の評価・検討 (一) 序・第一章 第27回 修士論文仮執筆の評価・検討 (二) 第二章 第28回 修士論文仮執筆の評価・検討 (三) 第三章 第29回 修士論文仮執筆の評価・検討 (四) 第四章 第30回 修士論文仮執筆の評価・検討 (五) 第五章</p>		
<p>●準備学習の内容</p> <p>論文執筆に必要な先行研究をしっかりと読み込み、そのうえで自分なりの論点が提示できるようノートを作ってまとめること。</p>		
<p>●テキスト</p> <p>受講者の修士論文のテーマにより決定します。</p>		
<p>●参考書</p> <p>受講者の修士論文のテーマにより決定します。</p>		
<p>●学生に対する評価</p> <p>講義での報告 (50%), 討論への参加度 (50%)</p>		

■授業科目	■単位	■担当教員
政治思想史特論演習Ⅱ	4	高橋 義彦
<p>●授業の到達目標及びテーマ</p> <p>修士論文を執筆、完成させること。</p>		
<p>●授業の概要</p> <p>修士論文完成のための文献講読と受講者の論文の検討を行います。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 修士論文追加日本語資料の検討 (一) 序章 第2回 修士論文追加日本語資料の検討 (二) 第一章 第3回 修士論文追加日本語資料の検討 (三) 第二章 第4回 修士論文追加日本語資料の検討 (四) 第三章 第5回 修士論文追加日本語資料の検討 (五) 第四章 第6回 修士論文追加日本語資料の検討 (六) 第五章 第7回 修士論文追加外国語資料の検討 (一) 序章 第8回 修士論文追加外国語資料の検討 (二) 第一章 第9回 修士論文追加外国語資料の検討 (三) 第二章 第10回 修士論文追加外国語資料の検討 (四) 第三章 第11回 修士論文追加外国語資料の検討 (五) 第四章 第12回 修士論文追加外国語資料の検討 (六) 第六章 第13回 修士論文の検討——序章前半 第14回 修士論文の検討——序章後半 第15回 修士論文の検討——第一章前半 第16回 修士論文の検討——第一章後半 第17回 修士論文の検討——第二章前半 第18回 修士論文の検討——第二章後半 第19回 修士論文の検討——第三章前半 第20回 修士論文の検討——第三章後半 第21回 修士論文の検討——第四章前半 第22回 修士論文の検討——第四章後半 第23回 修士論文の検討——第五章前半 第24回 修士論文の検討——第五章後半 第25回 修士論文の見直し——序章 第26回 修士論文の見直し——第一章 第27回 修士論文の見直し——第二章 第28回 修士論文の見直し——第三章 第29回 修士論文の見直し——第四章 第30回 修士論文の見直し——第五章</p>		
<p>●準備学習の内容</p> <p>しっかりと先行研究を読み込み、自分なりの論点を提示した修士論文の執筆を進めること。</p>		
<p>●テキスト</p> <p>受講者の修士論文のテーマにより決定します。</p>		
<p>●参考書</p> <p>受講者の修士論文のテーマにより決定します。</p>		
<p>●学生に対する評価</p> <p>講義での報告 (20%), 執筆された修士論文の内容 (80%)</p>		

■授業科目 公共政策論特論Ⅰ	■単位 2	■担当教員 堀内 匠
●授業の到達目標及びテーマ テーマ：公共政策のプロセスと具体的な公共政策の展開について多角的に学ぶ 到達目標： 1.我々が直面している社会問題と公共政策との関係について知る。 2.公共政策に関わる多様な主体について知る。 3.公共政策のプロセスに関する基礎的な知識を理解する。 4.具体的な公共政策を理解・分析し、立案するための基礎的能力を身につける。		
●授業の概要 私たちの日常生活と地域を支えるため、国や自治体などを舞台に多様な主体が公共政策の形成過程にかかわっています。本講義においては、多様化する住民・市民のニーズをどのように捉えて公共政策に反映させているのかについて、公共政策に関わる主体、制度、そして公共政策の歴史的動向を見渡し、公共政策のプロセスとその各段階について理解を深めることを目的とします。 なお、講義担当教員は、地方自治に関する研究機関における実務経験を有しており、本講義においては、そのなかで携わった現地調査・研究で得た知見から複数の事例を取り扱うこととしています。		
●授業計画 第1回 オリエンテーション：公共政策とは何か 第2回 政府の体系と公共政策 第3回 公共政策の舞台 第4回 公共政策の主体 第5回 事例編1：市場開放と買い物難民 第6回 政策過程の考え方 第7回 政策サイクル1（課題の設定） 第8回 政策サイクル2（立案） 第9回 政策サイクル3（決定） 第10回 政策サイクル4（評価） 第11回 日本型政策決定の特質 第12回 立法過程と予算過程 第13回 地方議会と地域社会 第14回 地域社会と地域政策 第15回 まとめ		
●準備学習の内容 自分のテーマと講義の内容の接点について、毎回ディスカッションの時間を設けます。考えをまとめてくるようにしてください。必要に応じてグループワーク、ディベート、プレゼン、フィールドワーク調査報告など主体的に行うことになります。		
●テキスト 指定なし		
●参考書 講義の際に指定する。		
●学生に対する評価 授業への参加度（討論への参加及びリアクションペーパーの提出）40%、課題レポート60%。		

■授業科目 公共政策論特論Ⅱ	■単位 2	■担当教員 堀内 匠
●授業の到達目標及びテーマ テーマ：公共政策のプロセスと具体的な公共政策の展開について多角的に学ぶ 到達目標： 1.我々が直面している社会問題に対する公共政策の効用について具体的な事例から考えられること 2.公共政策の実施における利害の両面について、具体的な利害関係者単位に分解して把握できること 3.公共性の空間における多重性を理解しながら課題と対策を設定できること		
●授業の概要 私たちの日常生活と地域を支えるため、国や自治体などを舞台に多様な主体が公共政策の形成過程にかかわっています。本講義においては、多様化する住民・市民のニーズをどのように捉えて公共政策に反映させているのかについて、政策テーマごとの具体的な事例に即してその困難性を学びます。 なお、講義担当教員は、地方自治に関する研究機関における実務経験を有しており、本講義においては、そのなかで携わった現地調査・研究で得た知見から複数の事例を取り扱うこととしています。		
●授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 事例編2：廃棄物処理施設の立地 第3回 市町村合併と地域 第4回 事例編3：政令指定都市の中の中の村 第5回 人口減少と地方創生 第6回 事例編4：地方移住促進と災害対策 第7回 冗長性の確保と財政危機 第8回 事例編5：インフラ老朽化と行政改革 第9回 選挙制度改革と議会改革 第10回 事例編6：議員のなり手不足と議会改革 第11回 地方分権改革 第12回 自治制度改革の動向1：官邸政策と地方制度 第13回 自治制度改革の動向2：地方制度改革のアリーナ 第14回 自治制度改革の動向3：直近の改革動向 第15回 まとめ		
●準備学習の内容 事例については事前に論文を配布するので、予め読んだ上で自分なりの意見をまとめてくること。また、内容については受講者の研究テーマに応じて変更の可能性がある。必要に応じてグループワーク、ディベート、プレゼン、フィールドワーク調査報告など主体的に行うことになる。		
●テキスト 指定なし		
●参考書 講義の際に指定する。		
●学生に対する評価 授業への参加度（討論への参加及びリアクションペーパーの提出）40%、課題レポート（学期中）60%。		

■授業科目	■単位	■担当教員
公共政策論特論演習Ⅰ	4	堀内 匠
<p>●授業の到達目標及びテーマ 公共政策をテーマとする。 自ら定めた政策テーマについて、多角的に分析する視座を得ることを目標とする。</p>		
<p>●授業の概要 政策過程論に関する基本文献の読解を通じて、自らの研究テーマにその知見をフィードバックする方途を学ぶ。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 F.E.ローク（今村都南雄訳=1981年）『官僚制の権力と政策過程』中央大学出版会 第1章「政治的支持の動員」 第3回 F.E.ローク（今村都南雄訳=1981年）『官僚制の権力と政策過程』中央大学出版会 第2章「官僚制の専門的技能」 第4回 F.E.ローク（今村都南雄訳=1981年）『官僚制の権力と政策過程』中央大学出版会 第3章「機関権力の差異」 第5回 F.E.ローク（今村都南雄訳=1981年）『官僚制の権力と政策過程』中央大学出版会 第4章「官僚制における政策過程」 第6回 F.E.ローク（今村都南雄訳=1981年）『官僚制の権力と政策過程』中央大学出版会 第5章「政策決定の新しい意匠」 第7回 F.E.ローク（今村都南雄訳=1981年）『官僚制の権力と政策過程』中央大学出版会 第6章「パワー・エリートとしての官僚集団」 第8回 小括：研究テーマに関する知見（第2～第7回） 第9回 G.マヨネ（今村都南雄訳=1996年）『政策過程論の視座』三嶺書房 第1章「政策分析と公的審議」 第10回 G.マヨネ（今村都南雄訳=1996年）『政策過程論の視座』三嶺書房 第2章「議論としての政策分析」 第11回 G.マヨネ（今村都南雄訳=1996年）『政策過程論の視座』三嶺書房 第3章「職人技としての分析」 第12回 G.マヨネ（今村都南雄訳=1996年）『政策過程論の視座』三嶺書房 第4章「実行可能性の議論」 第13回 G.マヨネ（今村都南雄訳=1996年）『政策過程論の視座』三嶺書房 第5章「制度的制約の変革」 第14回 G.マヨネ（今村都南雄訳=1996年）『政策過程論の視座』三嶺書房 第6章「政策手段間の選択—公害規制のケース」 第15回 G.マヨネ（今村都南雄訳=1996年）『政策過程論の視座』三嶺書房 第7章「政策展開」 第16回 G.マヨネ（今村都南雄訳=1996年）『政策過程論の視座』三嶺書房 第8章「評価と責任」 第17回 小括：研究テーマに関する知見（第9回～第16回） 第18回 C.E.リンドプロム・E.J.ウッドハウス（藪野祐三、案浦朋子訳=2004年）『政策形成の過程—民主主義と公共性』東京大学出版会 第1章「政策形成をめぐる諸問題」、第2章「分析の限界」 第19回 C.E.リンドプロム・E.J.ウッドハウス（藪野祐三、案浦朋子訳=2004年）『政策形成の過程—民主主義と公共性』東京大学出版会 第3章「民主主義の潜在的知性」、第4章「投票の不確実性」 第20回 C.E.リンドプロム・E.J.ウッドハウス（藪野祐三、案浦朋子訳=2004年）『政策形成の過程—民主主義と公共性』東京大学出版会 第5章「公選職公務員」、第6章「官僚による政策形成」 第21回 C.E.リンドプロム・E.J.ウッドハウス（藪野祐三、案浦朋子訳=2004年）『政策形成の過程—民主主義と公共性』東京大学出版会 第7章「政策形成における利益集団」、第8章「政策形成において経済界の占める役割」 第22回 C.E.リンドプロム・E.J.ウッドハウス（藪野祐三、案浦朋子訳=2004年）『政策形成の過程—民主主義と公共性』東京大学出版会 第9章「政治的不平等」、第10章「調査の機能不全」 第23回 C.E.リンドプロム・E.J.ウッドハウス（藪野祐三、案浦朋子訳=2004年）『政策形成の過程—民主主義と公共性』東京大学出版会 第11章「分析の最大限の活用」、第12章「さらなる民主主義を求めて」 第24回 小括：研究テーマに関する知見（第18回～第23回） 第25回 L.M.サラモン（江上哲ほか訳=2007年）『NPOと公共サービス—政府と民間のパートナーシップ』ミネルヴァ書房 第1部「理論的展望」 第26回 L.M.サラモン（江上哲ほか訳=2007年）『NPOと公共サービス—政府と民間のパートナーシップ』ミネルヴァ書房 第2部「一般的現実：非営利セクターと政府」 第27回 L.M.サラモン（江上哲ほか訳=2007年）『NPOと公共サービス—政府と民間のパートナーシップ』ミネルヴァ書房 第3部「政府支援の結果」 第28回 L.M.サラモン（江上哲ほか訳=2007年）『NPOと公共サービス—政府と民間のパートナーシップ』ミネルヴァ書房 第4部「小さな政府の衝撃」 第29回 L.M.サラモン（江上哲ほか訳=2007年）『NPOと公共サービス—政府と民間のパートナーシップ』ミネルヴァ書房 第5部「将来への動向」 第30回 まとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 各回の指定文献を読み、自分なりの論点・コメントをまとめたうえで出席すること。必要に応じてグループワーク、ディベート、プレゼン、フィールドワーク調査報告など主体的に行うことになる。</p>		
<p>●テキスト 計画中に示した4冊。ただし受講者の関心に応じて入れ替える可能性がある。詳細は初回開講時に指示する。</p>		
<p>●参考書 研究内容に応じて相談する。</p>		
<p>●学生に対する評価 毎回の発言内容で評価する（100%）。</p>		

■授業科目	■単位	■担当教員
公共政策論特論演習Ⅱ	4	堀内 匠
<p>●授業の到達目標及びテーマ 公共政策をテーマとする。 自ら定めた政策テーマについて、多角的に分析する視座を得ることを目標とする。</p>		
<p>●授業の概要 文献通読によって日本における政府・公共政策領域の拡大について学び、後半では日本の自治制度改革に関する中長期的パースペクティブにたった研究スタイルに接する。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 松下圭一（1991年）『政策型思考と政治』東京大学出版会 1「政治・政策と市民」～5「日本の政策条件」 第3回 松下圭一（1991年）『政策型思考と政治』東京大学出版会 6「政策発想の再編」～8「政策の資源と類型」 第4回 松下圭一（1991年）『政策型思考と政治』東京大学出版会 9「政策型思考への論理」～11「政策型思考の熟成」 第5回 松下圭一（1991年）『政策型思考と政治』東京大学出版会 12「政策決定と政府・基本法」～16「政策の実効・演出・転換」 第6回 松下圭一（1991年）『政策型思考と政治』東京大学出版会 17「自治体レベルの政策」～19「国際機構レベルの政策」 第7回 松下圭一（1991年）『政策型思考と政治』東京大学出版会 20「政治制御と市民文化」 第8回 篠原一編（2012年）『討議デモクラシーの挑戦—ミニ・パブリックスが拓く新しい政治』岩波書店 第1部「ミニ・パブリックス型討議の基本類型」 第9回 篠原一編（2012年）『討議デモクラシーの挑戦—ミニ・パブリックスが拓く新しい政治』岩波書店 第2部「民衆会議の諸形態」 第10回 篠原一編（2012年）『討議デモクラシーの挑戦—ミニ・パブリックスが拓く新しい政治』岩波書店 第3部「市民討議の多元化」 第11回 大杉党（1991）『戦後地方制度改革の〈不決定〉形成』東京大学歳行政研究会研究叢書 序章「問題状況への接近」 第12回 大杉党（1991）『戦後地方制度改革の〈不決定〉形成』東京大学歳行政研究会研究叢書 第1章「地方制」答申の〈不決定〉形成、第2章「首都改革と地域開発」 第13回 大杉党（1991）『戦後地方制度改革の〈不決定〉形成』東京大学歳行政研究会研究叢書 第3章「事務再配分答申の〈不決定〉形成」、第4章「地方財政論争と「広域」概念の転換」 第14回 大杉党（1991）『戦後地方制度改革の〈不決定〉形成』東京大学歳行政研究会研究叢書 第5章「創造的諸概念の展開」、第6章「行政改革下の地方制度論議とその帰結」 第15回 大杉党（1991）『戦後地方制度改革の〈不決定〉形成』東京大学歳行政研究会研究叢書 第7章「〈不決定〉形成の分析」、終章「政府間関係の構想と管理手法の焦点化」 第16回 地方制度調査会の役割（講義） 第17回 谷本有美子（2019）『地方自治の責任部局』の研究—その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』公人の友社 序章「地方自治の責任部局」存続メカニズムへのアプローチ 第18回 谷本有美子（2019）『地方自治の責任部局』の研究—その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』公人の友社 第1章「代弁・擁護」機能の必要性と官僚機構の存続」 第19回 谷本有美子（2019）『地方自治の責任部局』の研究—その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』公人の友社 第2章「監督・統制」機能の体系化と組織基盤の確立」 第20回 谷本有美子（2019）『地方自治の責任部局』の研究—その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』公人の友社 第3章「牽制・干渉」機能の定型化と地位の安定」 第21回 谷本有美子（2019）『地方自治の責任部局』の研究—その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』公人の友社 第4章「3機能の転回局面と組織目的の変容」 第22回 谷本有美子（2019）『地方自治の責任部局』の研究—その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』公人の友社 終章「地方自治の責任部局」存続の意味」 第23回 辻山幸章（1994）『地方分権と自治体連合』敬文堂 序章「混声合唱「地方分権」」 第24回 辻山幸章（1994）『地方分権と自治体連合』敬文堂 第1章「80年代行政改革の軌跡」 第25回 辻山幸章（1994）『地方分権と自治体連合』敬文堂 第2章「市町村広域行政の新展開」 第26回 辻山幸章（1994）『地方分権と自治体連合』敬文堂 第3章「行政の再編成と地方自治のゆくえ」 第27回 辻山幸章（1994）『地方分権と自治体連合』敬文堂 第4章「市町村連合」イメージとその条件」 第28回 辻山幸章（1994）『地方分権と自治体連合』敬文堂 第5章「都道府県連合への史的接近」 第29回 辻山幸章（1994）『地方分権と自治体連合』敬文堂 第6章「都道府県機能の現状と「都道府県連合」」 第30回 辻山幸章（1994）『地方分権と自治体連合』敬文堂 終章「地方分権と広域連合」</p>		
<p>●準備学習の内容 各回の指定文献を読み、自分なりの論点・コメントをまとめたうえで出席すること。必要に応じてグループワーク、ディベート、プレゼン、フィールドワーク調査報告など主体的に行うことになる。</p>		
<p>●テキスト 計画中に示した4冊。ただし受講者の関心に応じて入れ替える可能性がある。詳細は初回開講時に指示する。</p>		
<p>●参考書 研究内容に応じて相談する。</p>		
<p>●学生に対する評価 毎回の発言内容（100%）で評価する。</p>		

■授業科目 国際政治学特論 I	■単位 2	■担当教員 若月 秀和
<p>●授業の到達目標及びテーマ テーマ：主権国家体制の変容 到達目標：国際政治学に関する深い知識を修得することを通して、国際問題に関する幅広い認識を養う。</p>		
<p>●授業の概要 17世紀の西欧国際社会の成立から20世紀の東西冷戦までの国際関係の歴史を、専門書を通じて学ぶ。授業では、最初に文献内容について受講生に報告してもらい、これに関して教員が質問・コメント等をし、また受講生全員で討論して、毎回のテーマについての理解を深める。</p>		
<p>●授業計画 第1回 西欧国家体系と勢力均衡 第2回 第一次世界大戦と米国の登場 第3回 脆弱な基盤に立つヴェルサイユ体制 第4回 戦後国際秩序の崩壊 第5回 第二次大戦期の国際政治 第6回 東西冷戦対立の生成 第7回 アジアへの冷戦の波及 第8回 東西冷戦の雪解け 第9回 冷戦対立下でのヨーロッパ 第10回 中ソ対立の顕在化とベトナム戦争 第11回 米ソデタントと冷戦の変容 第12回 パレスチナ問題と中東戦争 第13回 イスラム革命と東西対立の再燃 第14回 新冷戦 第15回 東欧の民主革命とソ連の崩壊</p>		
<p>●準備学習の内容 授業前には指定する文献を熟読しておくこと。報告者は文献の内容を分析・整理して報告する必要がある。また、その他の受講生も文献内容から論点を抽出しておくこと。</p>		
<p>●テキスト 適宜指示する。</p>		
<p>●参考書 適宜指示する。</p>		
<p>●学生に対する評価 授業中の発言内容（50%）と報告内容（50%）で評価。報告内容の結果については授業内で個々にコメントする。</p>		

■授業科目 国際政治学特論 II	■単位 2	■担当教員 若月 秀和
<p>●授業の到達目標及びテーマ テーマ：国際政治の諸アクター 到達目標：国際政治学に関する理論と国際政治の現状への理解を修得することを通して、現代の国際社会に関する幅広い認識を養う。</p>		
<p>●授業の概要 国際政治の理論と現状を専門書を通じて学ぶ。授業では、最初に文献内容について受講生に報告してもらい、これに関して教員が質問・コメント等をし、また受講生全員で討論して、毎回のテーマについての理解を深める。</p>		
<p>●授業計画 第1回 国際政治学の基礎概念 第2回 国際政治とイデオロギー 第3回 国際政治学の理論 第4回 国家と外交政策 第5回 国際機構の役割 第6回 非国家アクター 第7回 安全保障 第8回 米国 第9回 ロシア 第10回 中国 第11回 EU諸国 第12回 南アジア 第13回 中東 第14回 アフリカ 第15回 ラテンアメリカ</p>		
<p>●準備学習の内容 授業前には指定する文献を熟読しておくこと。報告者は文献の内容を分析・整理して報告する必要がある。また、その他の受講生も文献内容から論点を抽出しておくこと。</p>		
<p>●テキスト 適宜指示する。</p>		
<p>●参考書 適宜指示する。</p>		
<p>●学生に対する評価 授業中の発言内容（50%）と報告内容（50%）で評価。報告内容の結果については授業内で個々にコメントする。</p>		

■授業科目	■単位	■担当教員
国際政治学特論演習Ⅰ	4	若月 秀和
<p>●授業の到達目標及びテーマ</p> <p>テーマ：修士論文の大枠形成</p> <p>到達目標：受講者各自が選択したテーマで修士論文を作成するための準備をサポートすることが、本講義の目的である。</p>		
<p>●授業の概要</p> <p>テーマの選定、文献収集、先行研究の検討などが指導内容になる。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 テーマ（大枠）の選定</p> <p>第3回 テーマに関する知識の確認</p> <p>第4回 問題所在の明確化</p> <p>第5回 基本文献の探し方</p> <p>第6回 先行研究の熟読①李秉哲『新冷戦・新デタントと日本の東アジア外交：大平・鈴木・中曽根政権の対韓協力を中心に』東京大学出版会、2023年 序章</p> <p>第7回 先行研究の熟読②同上 第1章</p> <p>第8回 先行研究の熟読③同上 第2章</p> <p>第9回 先行研究の熟読④同上 第3章</p> <p>第10回 先行研究の熟読⑤同上 第4章</p> <p>第11回 先行研究の熟読⑥同上 第終章</p> <p>第12回 先行研究の熟読⑦山口航『冷戦終焉期の日米関係—分化する総合安全保障』吉川弘文館、2023年、序章・1部第1章</p> <p>第13回 先行研究の熟読⑧同上 1部第2章・第3章</p> <p>第14回 先行研究の熟読⑨同上 1部第4章・第5章</p> <p>第15回 先行研究の熟読⑩同上 2部第1章・第2章</p> <p>第16回 先行研究の熟読⑪同上 2部第3章</p> <p>第17回 上記先行研究⑫同上 3部第1章・第2章</p> <p>第18回 上記先行研究⑬同上 3部第3章と終章</p> <p>第19回 上記先行研究（李著）の整理①</p> <p>第20回 上記先行研究（李著）の整理②</p> <p>第21回 上記先行研究（山口著）の整理③</p> <p>第22回 上記先行研究（山口著）の整理④</p> <p>第23回 上記先行研究（李・山口著）の総合的整理①</p> <p>第24回 上記先行研究（李・山口著）の総合的整理②</p> <p>第25回 修士論文の目次の検討</p> <p>第26回 修士論文の目次の作成</p> <p>第27回 二年次に向けての研究計画についての検討</p> <p>第28回 二年次に向けての研究計画の原案発表</p> <p>第29回 二年次に向けての研究計画原案の検討</p> <p>第30回 二年次に向けての研究計画成案の発表</p>		
<p>●準備学習の内容</p> <p>授業前に指定する文献を読んでおくこと。</p>		
<p>●テキスト</p> <p>上記授業計画に記したもの。</p>		
<p>●参考書</p> <p>適宜指示する。</p>		
<p>●学生に対する評価</p> <p>授業中の発言内容（50%）と報告内容（50%）で評価。報告内容の結果については授業内で個々にコメントする。</p>		

■授業科目	■単位	■担当教員
国際政治学特論演習Ⅱ	4	若月 秀和
<p>●授業の到達目標及びテーマ</p> <p>テーマ：修士論文の完成に向けて</p> <p>到達目標：国際政治学特論演習Ⅰを踏まえて、受講者各自が選択したテーマで修士論文の完成にアプローチすることが、本講義の目的である。</p>		
<p>●授業の概要</p> <p>特論演習Ⅰで考察してきた事柄に基づき論文を作成していくことになる。授業の方式としては、受講者が中間報告を随時行い、それに対して担当者が課題を提示したうえで、内容の再検討を重ね、論文の完成に近づけていく。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 昨年度の反省と今年度の展望</p> <p>第2回 問題意識の確認</p> <p>第3回 論文の全体的な流れの報告</p> <p>第4回 問題の提示を受けた後の再報告</p> <p>第5回 序章（はじめに）に関する報告</p> <p>第6回 課題の提示を受けた後の再報告</p> <p>第7回 序章（はじめに）の文章化</p> <p>第8回 表現方法等についての指導</p> <p>第9回 第1章に関する報告</p> <p>第10回 課題の提示を受けた後の再報告</p> <p>第11回 第1章の文章化</p> <p>第12回 構成・内容等に関する指導</p> <p>第13回 表現方法・注などに関する指導</p> <p>第14回 第1章と第2章とのつながりに関する指導</p> <p>第15回 前期総括</p> <p>第16回 第2章に関する報告</p> <p>第17回 課題の提示を受けた後の再報告</p> <p>第18回 第2章の文章化</p> <p>第19回 構成・内容などに関する指導</p> <p>第20回 表現方法・注などに関する指導</p> <p>第21回 第2章と第3章とのつながりに関する指導</p> <p>第22回 第3章に関する報告</p> <p>第23回 課題の提示を受けた後の再報告</p> <p>第24回 第3章の文章化</p> <p>第25回 構成・内容などに関する指導</p> <p>第26回 表現方法・注などに関する指導</p> <p>第27回 結論に関する報告</p> <p>第28回 課題の提示を受けた後の再報告</p> <p>第29回 表現方法などについての指導</p> <p>第30回 修正論文完成への最終チェック</p>		
<p>●準備学習の内容</p> <p>授業前に指定する文献を読んでおくこと。</p>		
<p>●テキスト</p> <p>適宜指示する。</p>		
<p>●参考書</p> <p>適宜指示する。</p>		
<p>●学生に対する評価</p> <p>報告内容で評価する（100%）。報告内容の結果については授業内で個々にコメントする。</p>		

■授業科目 政治過程論特論 I	■単位 2	■担当教員 本田 宏
<p>●授業の到達目標及びテーマ 比較政治理論がテーマ。現代政治理論について理解を深めるとともに英語読解力をつけるのが目標。</p>		
<p>●授業の概要 比較政治学の英文テキストの中から、受講生の関心のある章を選んで読む。「授業計画」に記載したのは各章のタイトルであり、毎回1章ずつ読むわけではない。受講生の英語読解力に応じて読むスピードは変わる。「政治過程論特論 II」の「授業計画」に掲載した章の中から選んで読むことも可能。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 0 Introduction to comparative politics</p> <p>第3回 1 The relevance of comparative politics</p> <p>第4回 2 Approaches in comparative politics</p> <p>第5回 3 Comparative research methods</p> <p>第6回 4 The nation-state</p> <p>第7回 5 Democracies</p> <p>第8回 6 Authoritarian regimes</p> <p>第9回 7 Legislatures</p> <p>第10回 8 Governments and bureaucracies</p> <p>第11回 9 Constitutions, rights, and judicial power</p> <p>第12回 10 Elections and referendums</p> <p>第13回 11 Multilevel governance</p> <p>第14回 12 Political parties</p> <p>第15回 まとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 毎回担当部分を全訳しておくことが求められる。</p>		
<p>●テキスト Caramani, Daniel (2020) Comparative Politics. 5th Edition. Oxford University Press. PDF版があるので、購入は不要。</p>		
<p>●参考書 授業中に紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告内容で100%評価する。授業中にフィードバックを行う。</p>		

■授業科目 政治過程論特論 II	■単位 2	■担当教員 本田 宏
<p>●授業の到達目標及びテーマ 比較政治理論がテーマ。現代政治理論について理解を深めるとともに英語読解力をつけるのが目標。</p>		
<p>●授業の概要 比較政治学の英文テキストの中から、受講生の関心のある章を選んで読む。「授業計画」に記載したのは各章のタイトルであり、毎回1章ずつ読むわけではない。受講生の英語読解力に応じて読むスピードは変わる。「政治過程論特論 I」の「授業計画」に掲載した章の中から選んで読むことも可能。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 13 Party systems</p> <p>第3回 14 Interest groups</p> <p>第4回 15 Regions</p> <p>第5回 16 Social movements</p> <p>第6回 17 Political culture</p> <p>第7回 18 Political participation</p> <p>第8回 19 Political communication</p> <p>第9回 20 Policy-making</p> <p>第10回 21 The welfare state</p> <p>第11回 22 The impact of public policies</p> <p>第12回 23 The EU as a new political system</p> <p>第13回 24 Globalization and the nation-state</p> <p>第14回 25 From supporting democracy to supporting autocracy</p> <p>第15回 まとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 毎回担当部分を全訳しておくことが求められる。</p>		
<p>●テキスト Caramani, Daniel (2020) Comparative Politics. 5th Edition. Oxford University Press. PDF版があるので、購入は不要。</p>		
<p>●参考書 授業中に紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告内容で100%評価する。授業中にフィードバックを行う。</p>		

■授業科目	■単位	■担当教員
政治過程論特論演習Ⅰ	4	本田 宏
<p>●授業の到達目標及びテーマ 修士論文の完成に向けた準備作業をすませるのが目標である。テーマは受講生が決める。</p>		
<p>●授業の概要 受講者が設定したテーマに関して、研究計画・方法の練り直しを繰り返すとともに、段階的に論文のテーマを確定する。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 研究計画の大枠の検討 第3回 研究計画の個別の再検討 第4回 方法論に関するブレインストーミング 第5回 テーマに関するブレインストーミング 第6回 分析視角に関するブレインストーミング 第7回 参考文献の調査 第8回 参考文献の検討 第9回 参考文献の再検討 第10回 先行研究の調査 第11回 先行研究の検討 第12回 先行研究の再検討 第13回 テーマの暫定的な設定 第14回 テーマの再検討 第15回 特定文献の読み合わせ 第16回 特定文献の要約 第17回 特定文献の整理 第18回 特定文献の検討 第19回 特定文献の再検討 第20回 特定文献の考察 第21回 特定文献の再考 第22回 特定文献の読み込み 第23回 分析視角の検討 第24回 分析視角の再検討 第25回 分析視角の形成 第26回 分析視角の整理 第27回 調査方法の検討 第28回 調査方法の再検討 第29回 テーマの確定 第30回 まとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 文献を読み込んで要約しておくこと。</p>		
<p>●テキスト 初回以降に決定する。</p>		
<p>●参考書 演習時に適宜紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告内容で100%評価する。授業内でフィードバックを行う。</p>		

■授業科目	■単位	■担当教員
政治過程論特論演習Ⅱ	4	本田 宏
<p>●授業の到達目標及びテーマ 修士論文の完成が目標である。受講生がテーマを決定する。</p>		
<p>●授業の概要 受講者が設定したテーマに関して、研究計画書の作成を出発点として、研究計画・方法の練り直しを繰り返すとともに、段階的に論文を作成する。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 研究テーマに関するブレイン・ストーミング 第2回 テーマの暫定的な設定 第3回 暫定的な研究計画書の作成 第4回 文献・分析視角・調査方法の検討 第5回 分析視角と調査方法の再検討 第6回 研究計画書の完成 第7回 論文序章前半作成 第8回 論文序章後半作成 第9回 論文序章修正 第10回 論文第一章第一節作成 第11回 論文第一章第二節作成 第12回 論文第一章第三節作成 第13回 論文第一章第四節作成 第14回 論文第二章第一節作成 第15回 論文第二章第二節作成 第16回 論文第二章第三節作成 第17回 論文第二章第四節作成 第18回 論文第三章第一節作成 第19回 論文第三章第二節作成 第20回 論文結論修正 第21回 論文第三章第三節作成 第22回 論文第三章第四節作成 第23回 論文結論作成 第24回 論文序章修正 第25回 論文各章修正 第26回 論文各章の整合性の確保 第27回 論文各章の整合性の確認 第28回 論文結論の修正 第29回 論文序章の修正 第30回 論文全体の最終点検・完成</p>		
<p>●準備学習の内容 研究計画書を十分に検討し、論文を一定のペースで書いていくことが求められる。</p>		
<p>●テキスト 初回以降に決定する。</p>		
<p>●参考書 特になし。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告内容と論文（各50%）による。授業内にフィードバックを行う。</p>		

■授業科目 地方自治論特論Ⅰ	■単位 2	■担当教員 鹿谷 雄一
<p>●授業の到達目標及びテーマ テーマ：地方自治に関する基礎的知識の習得と改革動向。 到達目標：地方自治の基本的なしくみと改革が必要とされる背景について理解する。</p>		
<p>●授業の概要 地方自治をめぐる環境は戦後の諸改革や自治体の取組みなどにより大きく変容している。地方政治や地方行政に関するしくみ、理論、歴史、取組事例などの基礎的な知識や背景を理解するために、指定文献をもとにした報告と議論・考察により展開していく。 なお、受講者の問題関心により、授業内容を一部変更することがある。</p>		
<p>●授業計画 第1回 地方自治の現状 第2回 自治制度1：基本的なしくみ 第3回 自治制度2：執行機関（行政組織） 第4回 自治制度3：議事機関（議会） 第5回 比較地方自治1：多様な自治制度のあり方 第6回 比較地方自治2：戦前と戦後の地方自治制度 第7回 比較地方自治3：諸外国の地方自治制度 第8回 住民1：さまざまな権利 第9回 住民2：参加と協働 第10回 自治の規模1：広域行政と狭域行政 第11回 自治の規模2：市町村合併 第12回 自治の規模3：大都市制度 第13回 自治の課題1：地方分権改革 第14回 自治の課題2：地方公営企業・第三セクター 第15回 自治の課題3：公共サービス</p>		
<p>●準備学習の内容 授業前には指定文献を熟読し意見・コメントをまとめたペーパーを用意すること（3時間）。 レポート作成及びこれに関連する情報を収集すること（1時間）。</p>		
<p>●テキスト 特になし。</p>		
<p>●参考書 馬場健・南島和久編著『地方自治入門』法律文化社、2023年。 ヒジノケン・ビクター・レオナード『日本のローカルデモクラシー』芦書房、2015年。 伊藤正次編『多機関連携の行政学』有斐閣、2019年。 上記のほか、適宜紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告・発言（70%）とレポート（30%）により総合的に評価する。 授業で個々にコメント・フィードバックする。</p>		

■授業科目 地方自治論特論Ⅱ	■単位 2	■担当教員 鹿谷 雄一
<p>●授業の到達目標及びテーマ テーマ：地方自治における住民の役割。 到達目標：住民自治の状況を理解し地域社会における住民の役割やあり方とそれらの課題について理解する。</p>		
<p>●授業の概要 地方自治が抱える諸課題を解決するために、単に住民の理解を求めるだけではなく、参加などにより住民が担うべき役割の見直しについても取り組まれている。各地で模索されている住民自治のあり方の議論や住民が担うべき役割などについて、指定文献をもとにした報告と議論・考察により展開していく。 なお、受講者の問題関心により、授業内容を一部変更することがある。</p>		
<p>●授業計画 第1回 地方自治における住民 第2回 地方選挙1：データからみる地方選挙 第3回 地方選挙2：地方選挙の課題 第4回 直接請求制度1：制度の概要 第5回 直接請求制度2：自治立法 第6回 住民参加1：さまざまな参加手法と住民運動 第7回 住民参加2：住民参加条例と住民投票条例 第8回 住民参加3：住民投票の実践と住民総会の可能性 第9回 地域社会と住民1：地域社会における組織 第10回 地域社会と住民2：地域社会における住民の役割 第11回 地域社会と住民3：都市コミュニティと農村コミュニティ 第12回 地域社会と住民4：地域公共人材 第13回 課題解決に向けて1：民意と合意形成 第14回 課題解決に向けて2：ミニ・パブリックス 第15回 課題解決に向けて3：新しい自治のあり方</p>		
<p>●準備学習の内容 授業前には指定文献を熟読し意見・コメントをまとめたペーパーを用意すること（3時間）。 レポート作成及びこれに関連する情報を収集すること（1時間）。</p>		
<p>●テキスト 特になし。</p>		
<p>●参考書 馬場健・南島和久編著『地方自治入門』法律文化社、2023年。 豊中・伊藤編著『ローカル・ガバナンス－地方政府と市民社会－』木鐸社、2010年。 山本啓編『ローカル・ガバメントとローカル・ガバナンス』法政大学出版局、2008年。 上記のほか、適宜指示する。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告・発言（70%）とレポート（30%）により総合的に評価する。 授業で個々にコメント・フィードバックする。</p>		

■授業科目	■単位	■担当教員
地方自治論特論演習Ⅰ	4	鹿谷 雄一
●授業の到達目標及びテーマ テーマ：地方自治に関する基礎的な調査研究。 到達目標：地方自治に関する資料やデータを収集する方法を習得し、これらの内容を分析できるようになる。		
●授業の概要 修士論文の作成に向けて、研究テーマに必要な論点を取り上げていく。 地方自治に関する基本文献・先行研究などについて報告し検討するとともに、受講者の問題関心を踏まえた資料の収集方法と収集資料の解題の報告を通して地方自治の研究手法を習得していく。 なお、受講者の問題関心により、精読する基本文献・先行研究や授業計画などを変更することがある。		
●授業計画 第1回 イントロダクション 第2回 問題関心の確認 第3回 テーマ選定と研究手法 第4回 資料の収集1：図書 第5回 基本文献の精読1（村松岐夫『地方自治』1章～2章） 第6回 基本文献の精読2（村松岐夫『地方自治』3章～4章） 第7回 収集資料の解題1：図書 第8回 資料の収集2：雑誌記事 第9回 基本文献の精読3（村松岐夫『地方自治』5章～6章） 第10回 基本文献の精読4（村松岐夫『地方自治』終章） 第11回 収集資料の解題2：雑誌記事 資料の収集3：統計等 第13回 先行研究の精読1（金井利之『自治制度』（序章～2章） 第14回 先行研究の精読2（金井利之『自治制度』3章～4章） 第15回 収集資料の解題3：統計等 第16回 資料の収集4：公文書 第17回 先行研究の精読3（金井利之『自治制度』5章～6章） 第18回 先行研究の精読4（金井利之『自治制度』終章） 第19回 収集資料の解題4：公文書 第20回 資料の収集5：歴史的史料 第21回 先行研究の精読5（西尾勝『地方分権改革』1章） 第22回 先行研究の精読6（西尾勝『地方分権改革』2章～3章） 第23回 収集資料の解題5：歴史的史料 第24回 収集資料の整理 第25回 先行研究の精読7（西尾勝『地方分権改革』4章） 第26回 先行研究の精読8（西尾勝『地方分権改革』5章～おわりに） 第27回 収集資料の解題6：未報告の資料 第28回 先行研究の報告（前半） 第29回 先行研究の報告（後半） 第30回 まとめ		
●準備学習の内容 基本文献の精読と先行研究の精読では、授業前に指定文献を熟読し意見・コメントをまとめたペーパーを用意して参加すること（4時間）。 収集資料の解題では、それぞれの資料の特徴・ポイントと意見・コメントのメモを用意し、先行研究の報告のための準備をすること（4時間）。		
●テキスト 村松岐夫『地方自治』東京大学出版会、1988年。 金井利之『自治制度』東京大学出版会、2007年。 西尾勝『地方分権改革』東京大学出版会、2007年。		
●参考書 適宜紹介する。		
●学生に対する評価 報告内容（70%）と準備状況（30%）により総合的に評価する。 報告内容について、授業で個々にコメント・フィードバックする。		

■授業科目	■単位	■担当教員
地方自治論特論演習Ⅱ	4	鹿谷 雄一
●授業の到達目標及びテーマ テーマ：地方自治に関する資料・データの解明とその説明力の向上。 到達目標：資料やデータの内容を分析し解明するとともに、これらを利用して自分の主張を裏付けることができるようになる。		
●授業の概要 修士論文の完成に向けて、必要な作法と技術を修得しながら、研究テーマの理解と考察を深めていく。 地方自治に関する資料の原典や議事録などにあたりながら改革や制度改正が必要とされた背景や地方自治体での事例について分析・解明していく。これを踏まえて、説得力のある説明をする方法を模索していく。 なお、受講者の問題関心により、精読する原典資料や授業計画などを変更することがある。		
●授業計画 第1回 イントロダクション 第2回 論文作成の技法 第3回 目次・構成内容の検討 第4回 目次・構成内容の再検討 第5回 答申・勧告・報告書へのアプローチ 第6回 原典の精読1（市町村史・誌） 第7回 原典の精読2（都道府県史） 第8回 原典の精読3（地方制度調査会答申） 第9回 原典の精読4（地方分権推進委員会中間報告と勧告） 第10回 原典の精読5（地方分権推進計画） 第11回 原典の精読6（地方制度関連の審議会・研究会報告書） 第12回 原典の精読7（地方行政関連の審議会・研究会報告書） 第13回 原典の精読8（自治体における答申・勧告・報告書） 第14回 答申・勧告・報告書を活用した報告 第15回 法令・条例へのアプローチ 第16回 関連法とその沿革1（地方自治法） 第17回 関連法とその沿革2（地方自治法以外の関連法） 第18回 関連法とその沿革3（国会審議など） 第19回 関連法とその沿革4（口述資料など） 第20回 条例の制定過程1（自主条例の活用・制定状況） 第21回 条例の制定過程2（自治基本条例・議会基本条例） 第22回 条例の制定過程3（自治基本条例・議会基本条例の制定過程） 第23回 条例の制定過程4（自主条例研究） 第24回 法令・条例を活用した報告 第25回 白書・統計・新聞等の利用1（事象・施策等の状況） 第26回 白書・統計・新聞等の利用2（過去の事象・施策等） 第27回 白書・統計・新聞等の利用3（統計調査等の利用） 第28回 白書・統計・新聞等の利用4（図表の作成） 第29回 これまでの報告を組み合わせた報告 第30回 まとめ		
●準備学習の内容 原典の精読（第6回～第13回）では、授業前には指定文献を熟読し、必要なメモを用意してくること（4時間）。 報告（第14回、第24回、第29回）では、目次・構成内容を踏まえて収集資料を精読した上で文章化してくること（4時間）。 これら以外の回では、授業後に次回の授業で準備すべき事項について指示するが、目次・構成内容の検討を踏まえて修士論文の作成の準備を進めること（4時間）。		
●テキスト 特になし。		
●参考書 適宜指示する。		
●学生に対する評価 報告内容（70%）と準備状況（30%）により総合的に評価する。 報告内容について、授業で個々にコメント・フィードバックする。		

■授業科目 比較政治学特論 I	■単位 2	■担当教員 岩坂 将充
<p>●授業の到達目標及びテーマ テーマ：「民主化」（非民主主義体制から民主主義体制への移行／定着） 到達目標：民主化研究にかんする古典的文献の読解をとおとしての知識の獲得、および英語の学術書・学術論文を読みこなす力の獲得</p>		
<p>●授業の概要 指定されたテキストの該当箇所について、担当の受講生が報告（要約ならびに論点の整理）をおこない、それを踏まえたうえで議論を進めていく。</p>		
<p>●授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 民主主義とその諸領域 第3回 国家性・ナショナリズム・民主化 第4回 現代の非民主主義体制 第5回 旧体制のタイプと移行・定着 第6回 アクターと文脈 第7回 南欧①：スペインの事例 第8回 南欧②：ポルトガルの事例 第9回 南欧③：ギリシャの事例 第10回 南米①：ウルグアイの事例 第11回 南米②：ブラジルの事例 第12回 南米③：アルゼンチンの事例 第13回 南米④：チリの事例 第14回 旧共産圏ヨーロッパ①：地域の特質 第15回 旧共産圏ヨーロッパ②：まとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 テキストを指定しているので、報告担当者でなくとも、事前にならず該当箇所を読み込んでおくことが求められる。なお、指定テキストは部分的な邦語訳（第2回～第6回相当分）も出版されているため、原著を読み込む際の補助テキストとしてこれを利用することもできる。</p>		
<p>●テキスト Juan J. Linz and Alfred Stepan, Problems of Democratic Transition and Consolidation: Southern Europe, South America, and Post-Communist Europe. Baltimore and London: The Johns Hopkins University Press, 1996.</p>		
<p>●参考書 適宜紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価 発言・質問内容（50%）および報告（50%）により総合的に判断する。なお、評価は随時個別にコメントする。</p>		

■授業科目 比較政治学特論 II	■単位 2	■担当教員 岩坂 将充
<p>●授業の到達目標及びテーマ テーマ：中東地域の「民主化」 到達目標：中東地域の「民主化」をめぐる状況について比較政治的な視点から分析・理解する力の獲得、および比較政治学の知識を事例に適用・応用する能力の獲得</p>		
<p>●授業の概要 指定されたテキストの該当箇所について、担当の受講生が報告（要約ならびに論点の整理）をおこない、それを踏まえたうえで議論を進めていく。 なお、比較政治学の知識が前提となるので、「比較政治学特論 I」を合わせて履修することが望ましい。</p>		
<p>●授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 トランスナショナル性 第3回 パレスティナ問題 第4回 中東における「介入」 第5回 湾岸諸国における移民労働者 第6回 政治体制①：エジプトの事例 第7回 政治体制②：シリアの事例 第8回 政治体制③：サウディアラビアの事例 第9回 対立の調整①：イエメンの事例 第10回 対立の調整②：レバノンの事例 第11回 対立の調整③：イラクの事例 第12回 対立の調整④：アフガニスタンの事例 第13回 衝突①：イランの事例 第14回 衝突②：エジプトの事例 第15回 衝突③：パレスティナの事例</p>		
<p>●準備学習の内容 テキストを指定しているので、報告担当者でなくとも、事前にならず該当箇所を読み込んでおくことが求められる。</p>		
<p>●テキスト 酒井啓子編『中東政治学』有斐閣、2012年。</p>		
<p>●参考書 適宜紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価 発言・質問内容（50%）および報告（50%）により総合的に判断する。なお、評価は随時個別にコメントする。</p>		

■授業科目 比較政治学特論演習Ⅰ	■単位 4	■担当教員 岩坂 将充
●授業の到達目標及びテーマ テーマ：比較政治学に関する修士論文執筆に必要な、基本文献・先行研究の読解 到達目標：修士論文執筆において求められる準備や基本知識の獲得		
●授業の概要 受講生が報告を随時おこないつつ、基本文献・先行研究の読解をすすめる。文献は受講生のテーマによって決定する。		
●授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 テーマの選定と執筆に必要な知識・情報の報告 第3回 リサーチクエスションの報告 第4回 基本文献・先行研究の報告 第5回 基本文献・先行研究の検討 第6回 リサーチクエスションの再報告と設定 第7回 分析枠組みの検討 第8回 基本文献・先行研究の読解（邦語：全体の最初の1/5相当）① 第9回 基本文献・先行研究の読解（邦語：全体の第二1/5相当）② 第10回 基本文献・先行研究の読解（邦語：全体の第三1/5相当）③ 第11回 基本文献・先行研究の読解（邦語：全体の第四1/5相当）④ 第12回 基本文献・先行研究の読解（邦語：全体の第五1/5相当）⑤ 第13回 分析枠組みの再検討 第14回 リサーチクエスションの再検討 第15回 論文構成の検討 第16回 基本文献・先行研究の読解（外国語：全体の最初の1/5相当）① 第17回 基本文献・先行研究の読解（外国語：全体の第二1/5相当）② 第18回 基本文献・先行研究の読解（外国語：全体の第三1/5相当）③ 第19回 基本文献・先行研究の読解（外国語：全体の第四1/5相当）④ 第20回 基本文献・先行研究の読解（外国語：全体の第五1/5相当）⑤ 第21回 修士論文草稿の執筆状況報告①（全体の最初の1/4相当） 第22回 修士論文草稿の執筆状況報告②（全体の第二1/4相当） 第23回 修士論文草稿の執筆状況報告③（全体の第三1/4相当） 第24回 修士論文草稿の執筆状況報告④（全体の第四1/4相当） 第25回 修士論文草稿の執筆状況報告⑤（全体） 第26回 修士論文草稿の検討①（全体の最初の1/4相当） 第27回 修士論文草稿の検討②（全体の第二1/4相当） 第28回 修士論文草稿の検討③（全体の第三1/4相当） 第29回 修士論文草稿の検討④（全体の第四1/4相当） 第30回 修士論文草稿の検討⑤（全体）		
●準備学習の内容 受講生には、自らのテーマに沿って基本文献・先行研究を読み進めるだけでなく、報告や議論、そこから得たヒントをまとめるアイデア・ノートを作成して発想の経緯を記録することを強くすすめる。		
●テキスト 受講生のテーマによって決定するが、以下の3冊を候補として挙げておく。 ①東島雅昌『民主主義を装う権威主義—世界化する選挙独裁とその論理』千倉書房、2023年。 ②日本比較政治学会編『競争的権威主義の安定性と不安定性』（日本比較政治学会年報第19号）ミネルヴァ書房、2017年。 ③S. Levitsky and L. A. Way. Competitive Authoritarianism: Hybrid Regimes After the Cold War. Cambridge University Press, 2010.		
●参考書 適宜紹介する。		
●学生に対する評価 発言・質問内容（50%）および報告（50%）により総合的に判断する。なお、評価は随時個別にコメントする。		

■授業科目 比較政治学特論演習Ⅱ	■単位 4	■担当教員 岩坂 将充
●授業の到達目標及びテーマ テーマ：比較政治学に関する修士論文の完成に必要な、追加文献・先行研究の読解 到達目標：修士論文の完成		
●授業の概要 受講生が報告を随時おこないつつ、追加文献・先行研究の読解をすすめる。文献は受講生のテーマによって決定する。		
●授業計画 第1回 追加文献・先行研究の読解（邦語：全体の最初の1/5相当）① 第2回 追加文献・先行研究の読解（邦語：全体の第二1/5相当）② 第3回 追加文献・先行研究の読解（邦語：全体の第三1/5相当）③ 第4回 追加文献・先行研究の読解（邦語：全体の第四1/5相当）④ 第5回 追加文献・先行研究の読解（邦語：全体の第五1/5相当）⑤ 第6回 邦語文献の読解をふまえたうえでの執筆方針の再検討と確認 第7回 追加文献・先行研究の読解（外国語：全体の最初の1/5相当）① 第8回 追加文献・先行研究の読解（外国語：全体の第二1/5相当）② 第9回 追加文献・先行研究の読解（外国語：全体の第三1/5相当）③ 第10回 追加文献・先行研究の読解（外国語：全体の第四1/5相当）④ 第11回 追加文献・先行研究の読解（外国語：全体の第五1/5相当）⑤ 第12回 外国語文献の読解をふまえたうえでの執筆方針の再検討と確認 第13回 修士論文の執筆状況報告①（全体の最初の1/4相当） 第14回 修士論文の執筆状況報告②（全体の第二1/4相当） 第15回 修士論文の執筆状況報告③（全体の第三1/4相当） 第16回 修士論文の執筆状況報告④（全体の第四1/4相当） 第17回 修士論文の執筆状況報告⑤（全体） 第18回 修士論文の中間確認 第19回 修士論文の執筆状況報告⑥（全体の最初の1/4相当） 第20回 修士論文の執筆状況報告⑦（全体の第二1/4相当） 第21回 修士論文の執筆状況報告⑧（全体の第三1/4相当） 第22回 修士論文の執筆状況報告⑨（全体の第四1/4相当） 第23回 修士論文の執筆状況報告⑩（全体） 第24回 修士論文の最終確認 第25回 修士論文完成稿の投稿に向けた検討①（全体の最初の1/4相当） 第26回 修士論文完成稿の投稿に向けた検討②（全体の第二1/4相当） 第27回 修士論文完成稿の投稿に向けた検討③（全体の第三1/4相当） 第28回 修士論文完成稿の投稿に向けた検討④（全体の第四1/4相当） 第29回 修士論文完成稿の投稿に向けた検討⑤（全体） 第30回 まとめ		
●準備学習の内容 受講生には、自らのテーマに沿って基本文献・先行研究を読み進めるだけでなく、報告や議論、そこから得たヒントをまとめるアイデア・ノートを作成して発想の経緯を記録することを強くすすめる。		
●テキスト 受講生のテーマによって決定する。		
●参考書 適宜紹介する。		
●学生に対する評価 発言・質問・報告内容（50%）および修士論文の内容（50%）により総合的に判断する。なお、評価は随時個別にコメントする。		

■授業科目 ジャーナリズム論特論Ⅰ	■単位 2	■担当教員 韓 永學
●授業の到達目標及びテーマ 到達目標：ジャーナリズムの基礎理論と制度について理解すること テーマ：ジャーナリズムの理論と制度		
●授業の概要 本講義では、ジャーナリズムの基礎理論と制度について概説したうえで、日本のジャーナリズムの構造的特徴（日本型ジャーナリズム）について多角的に分析・検討する。 下記の授業計画は、受講者との協議により、変更の可能性もある。		
●授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 ジャーナリズムの定義 第3回 メディアとジャーナリズム 第4回 取材・編集・報道のプロセスとその自由 第5回 ジャーナリズムと知る権利 第6回 調査報道 第7回 ジャーナリズムと権力 第8回 ジャーナリズムと世論 第9回 ジャーナリズムと人権 第10回 ジャーナリズムの倫理と責任 第11回 日本型ジャーナリズム(1)：組織ジャーナリズム 第12回 日本型ジャーナリズム(2)：記者クラブと発表報道 第13回 日本型ジャーナリズム(3)：メディアスクラム 第14回 日本型ジャーナリズム(4)：貧弱なメディア責任制度 第15回 総括		
●準備学習の内容 (予習) 指定の文献・資料を読むこと（2時間程度）。 (復習) 参考書を用いて講義で取り上げた内容の理解を深めること（2時間程度）。		
●テキスト 初回の講義時に指示する。		
●参考書 講義の中で適宜紹介する。		
●学生に対する評価 報告内容（50%）及び討論（50%）により総合的に評価する。 報告内容やレポートの結果については講義内で個々にコメントする。		

■授業科目 ジャーナリズム論特論Ⅱ	■単位 2	■担当教員 韓 永學
●授業の到達目標及びテーマ 到達目標：ジャーナリズムの法と倫理について理解すること テーマ：ジャーナリズムの法と倫理		
●授業の概要 本講義では、ジャーナリズムの法と倫理の基礎理論について概説したうえで、現代日本のジャーナリズムの法と倫理の構造的特徴について多角的に分析・検討する。 下記の授業計画は、受講者との協議により、変更の可能性もある。		
●授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 表現の自由の歴史と理論 第3回 表現・報道の自由と知る権利 第4回 表現の自由と名誉権 第5回 表現の自由とプライバシー権 第6回 表現の自由と国家機密 第7回 表現の自由と性秩序・青少年保護 第8回 表現の自由と選挙の公正 第9回 表現の自由と裁判の公正 第10回 メディアへの市民のアクセス 第11回 ジャーナリズムの原則 第12回 ジャーナリズムの倫理 第13回 メディアの社会的責任 第14回 メディア責任制度 第15回 総括		
●準備学習の内容 (予習) 指定の文献・資料を読むこと（2時間程度）。 (復習) 参考書を用いて講義で取り上げた内容の理解を深めること（2時間程度）。		
●テキスト 初回の講義時に指示する。		
●参考書 講義の中で適宜紹介する。		
●学生に対する評価 報告内容（50%）及び討論（50%）により総合的に評価する。 報告内容やレポートの結果については講義内で個々にコメントする。		

■授業科目	■単位	■担当教員
ジャーナリズム論特論演習Ⅰ	4	韓 永學
<p>●授業の到達目標及びテーマ 到達目標：修士論文作成に向けて必要な知識やスキルを習得すること テーマ：修士論文の構想と執筆準備</p>		
<p>●授業の概要 本演習では、受講生の問題関心及び研究計画に基づき、メディアやジャーナリズムに関する修士論文の作成に向けてテーマの設定、先行研究の検討、修士論文の骨子の作成等、必要な研究指導を行う。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 メディアやジャーナリズムに関する問題関心の確認 第3回 仮研究テーマの設定 第4回 仮研究テーマの基本文献の調査(1)：日本語文献 第5回 仮研究テーマの基本文献の調査(2)：外国語文献 第6回 仮研究テーマの基本文献の収集(1)：日本語文献 第7回 仮研究テーマの基本文献の収集(2)：外国語文献 第8回 仮研究テーマの基本文献の読解(1)：日本語文献 第9回 仮研究テーマの基本文献の読解(2)：外国語文献 第10回 仮研究テーマの関連学説や判例の概観 第11回 仮研究テーマの独創性及び研究の実現可能性の検討 第12回 研究テーマの再設定 第13回 修士論文研究計画案の策定と検討 第14回 先行研究の調査(1)：日本語文献 第15回 先行研究の調査(2)：外国語文献 第16回 先行研究の収集(1)：日本語文献 第17回 先行研究の収集(2)：外国語文献 第18回 先行研究の熟読(1)：日本語文献 第19回 先行研究の熟読(2)：外国語文献 第20回 先行研究の批判的分析 第21回 先行研究の課題析出 第22回 関連学説や判例の分析・検討 第23回 補充的な文献の収集・熟読 第24回 補充的な文献の批判的分析と課題析出 第25回 研究テーマの確定 第26回 修士論文研究計画の策定と検討：研究の背景、目的、対象、方法等 第27回 修士論文の骨子の作成(1)：序論 第28回 修士論文の骨子の作成(2)：本論 第29回 修士論文の骨子の作成(3)：結論 第30回 総括</p>		
<p>●準備学習の内容 (予習) 研究テーマに即した文献・資料を読むこと(2時間程度)。 (復習) 修士論文の大枠を構築し、骨子を作成すること(2時間程度)。</p>		
<p>●テキスト 初回の講義時に指示する。</p>		
<p>●参考書 講義の中で適宜紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告内容(50%)及び討論(50%)により総合的に評価する。 報告内容については講義内で個々にコメントする。</p>		

■授業科目	■単位	■担当教員
ジャーナリズム論特論演習Ⅱ	4	韓 永學
<p>●授業の到達目標及びテーマ 到達目標：修理論文を完成すること テーマ：修士論文の作成</p>		
<p>●授業の概要 本演習では、受講生の問題関心及び研究計画に基づき、メディアやジャーナリズムに関する修士論文が作成できるように必要な研究指導を行う。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 修士論文研究計画の再確認 第3回 修士論文の骨子の検討 第4回 序論のドラフト作成 第5回 序論の報告と討論 第6回 序論の作成 第7回 序論の再検討と補正 第8回 第1章のドラフト作成 第9回 第1章の報告と討論 第10回 第1章の作成 第11回 第1章の再検討と補正 第12回 第2章のドラフト作成 第13回 第2章の報告と討論 第14回 第2章の作成 第15回 第2章の再検討と補正 第16回 第3章のドラフト作成 第17回 第3章の報告と討論 第18回 第3章の作成 第19回 第3章の再検討と補正 第20回 第4章のドラフト作成 第21回 第4章の報告と討論 第22回 第4章の作成 第23回 第4章の再検討と補正 第24回 結論のドラフト作成 第25回 結論の報告と討論 第26回 結論の作成 第27回 結論の再検討と補正 第28回 修士論文の全体の再検討と補正 第29回 修士論文の最終確認 第30回 総括</p>		
<p>●準備学習の内容 (予習) 研究テーマに即した文献・資料を読むこと(2時間程度)。 (復習) 修士論文の執筆を進めること(2時間程度)。</p>		
<p>●テキスト 初回の講義時に指示する。</p>		
<p>●参考書 講義の中で適宜紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告内容(30%)、討論(20%)及び修士論文の内容(50%)により総合的に評価する。 報告内容については講義内で個々にコメントする。</p>		

■授業科目 比較政治経済学特論 I	■単位 2	■担当教員 井上 睦
<p>●授業の到達目標及びテーマ テーマ：比較政治経済学に関する基礎的な知識の習得と問題意識の獲得 到達目標：比較政治経済学に関して基礎的な知識を習得するとともに、それを通じて関心を深め、問題意識を獲得することを目指します。</p>		
<p>●授業の概要 一国の政治経済を考える際、比較の観点は必須です。一方、今日、国際環境を抜きに国内の政治経済の動向を分析することができないことからわかるように、政治経済学では国際－国内の連関を常に念頭に置くことも求められています。 本授業は、文献読解を通じて、政治経済に関する理解を深めるとともに、主体的に学びを深めることを目的とします。授業終了時には各自関心のあるテーマに沿ったレポート提出を求めます。</p>		
<p>●授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 戦後政治経済体制(1)埋め込まれた自由主義 第3回 戦後政治経済体制(2)フォーディズム 第4回 戦後政治経済体制(3)労使和解体制 第5回 戦後政治経済体制の変容(1)国際関係と国内政治 第6回 戦後政治経済体制の変容(2)グローバル化 第7回 戦後政治経済体制の変容(3)グローバル化の制約 第8回 レジームの多様性(1)収斂と多様化 第9回 レジームの多様性(2)福祉国家の多様性 第10回 レジームの多様性(3)資本主義の多様性 第11回 各論(1)政治体制と経済成長 第12回 各論(2)党派性とマクロ経済政策 第13回 各論(3)福祉国家とジェンダー 第14回 レポートのテーマ設定 第15回 まとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 各回指定文献を読み、自分なりのコメント・論点を準備して授業に臨むこと。担当者は報告回のレジュメを準備すること。</p>		
<p>●テキスト 授業内で指示します。</p>		
<p>●参考書 授業内で指示します。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告(30%)、授業参加度(30%)、レポート(40%)とし、総合的に評価します。 報告内容については各回個別にコメントします。</p>		

■授業科目 比較政治経済学特論 II	■単位 2	■担当教員 井上 睦
<p>●授業の到達目標及びテーマ テーマ：比較政治経済学における主要テーマと地域の動向 到達目標：比較政治経済学の主要なテーマおよびその現状・課題についての理解を深め、各地域の特徴を掴むとともに、それを通じて自らの関心・テーマを空間軸・時間軸に位置づけ思考することができるようになることを目指します。</p>		
<p>●授業の概要 各回担当者に報告してもらった上で、議論を行います。学んだ内容を踏まえ、各人の関心に応じた最終レポートの提出を求めます。</p>		
<p>●授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 国際政治経済 第3回 福祉国家 第4回 開発主義 第5回 ジェンダー 第6回 社会問題 第7回 国際機関 (IMF・世界銀行) 第8回 政治体制 第9回 金融経済 第10回 西ヨーロッパ 第11回 アングロサクソン諸国 第12回 ラテンアメリカ 第13回 東アジア 第14回 日本 第15回 まとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 報告者は担当回のレジュメを準備すること。報告者以外は各回指定箇所を読み、論点・コメントを準備して臨むこと。</p>		
<p>●テキスト 適宜指示します。</p>		
<p>●参考書 適宜指示します。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告(30%)、授業参加(30%)、最終レポート(40%)として総合的に評価します。 報告内容については各回個別にコメントします。</p>		

■授業科目	■単位	■担当教員
比較政治経済学特論演習Ⅰ	4	井上 睦
●授業の到達目標及びテーマ テーマ：比較政治経済学に関する調査研究 到達目標：比較政治経済学に関する調査研究手法を学び、問題意識を明確化できるようになることを目指します。		
●授業の概要 比較政治経済学に関する基礎文献・先行研究の読解をしながら、受講者自身の問題意識を明確化するとともに、研究手法を学んでいきます。		
●授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 問題意識の明確化 第3回 テーマの設定と文献整理 第4回 基礎文献読解1-1：クラウチ『現代の資本主義制度』1～4章 第5回 基礎文献読解1-2：クラウチ『現代の資本主義制度』5～7章 第6回 基礎文献読解1-3：クラウチ『現代の資本主義制度』8～11章 第7回 基礎文献1の位置付け・研究手法の整理検討 第8回 リサーチ・クエスションの設定と評価 第9回 基礎文献読解2-1：Esping-Andersen, The Three Worlds of Welfare Capitalism 第1部 第10回 基礎文献読解2-2：Esping-Andersen, The Three Worlds of Welfare Capitalism 第2部 第11回 基礎文献読解2-3：Esping-Andersen, The Three Worlds of Welfare Capitalism 第3部 第12回 基礎文献2の位置付け・研究手法の整理検討 第13回 先行研究のマッピング 第14回 研究デザイン 第15回 基礎文献読解3-1：サルトーリ『現代政党学』Ⅰ部 第16回 基礎文献読解3-2：サルトーリ『現代政党学』Ⅱ部前半 第17回 基礎文献読解3-3：サルトーリ『現代政党学』Ⅱ部後半 第18回 基礎文献3の位置付け・研究手法の整理検討 第19回 仮説と分析枠組み 第20回 文献読解1-1：大西裕『韓国経済の政治分析』前半 第21回 文献読解1-2：大西裕『韓国経済の政治分析』後半 第22回 文献1の位置付け・分析手法の検討 第23回 資料収集と収集資料の検討 第24回 資料分析の手法 第25回 文献読解2-1：Haggard & Kaufman, The Political Economy of Democratic Transitions 第Ⅰ部 第26回 文献読解2-2：Haggard & Kaufman, The Political Economy of Democratic Transitions 第Ⅱ部 第27回 文献読解2-3：Haggard & Kaufman, The Political Economy of Democratic Transitions 第Ⅲ部 第28回 文献2の位置付け・分析手法の検討 第29回 理論化・モデル化の手法 第30回 まとめ		
●準備学習の内容 各回に合わせた事前準備を行うこと。先行研究については回にかかわらず継続的に収集・検討すること。		
●テキスト コリン・クラウチ(2001)『現代の資本主義制度』NTT出版；G. Esping-Andersen(1990) The Three Worlds of Welfare Capitalism, Princeton University Press；ジョバンニ・サルトーリ(2009)『現代政党学』早稲田大学出版部；大西裕(2005)『韓国経済の政治分析』有斐閣；S. Haggard & R. Kaufman(2018) The Political Economy of Democratic Transitions, Princeton University Press. ただし、受講者の関心に応じて変更する場合があります。		
●参考書 適宜指示します。		
●学生に対する評価 報告(50%)、準備内容(50%)とし、総合的に評価します。報告内容については各回個別にコメントします。		

■授業科目	■単位	■担当教員
比較政治経済学特論演習Ⅱ	4	井上 睦
●授業の到達目標及びテーマ テーマ：比較政治経済学に関する調査研究能力の向上 到達目標：比較政治経済学に関する資料の調査分析・理論化によって自らの主張を説得的に展開できるようになることを目指します。		
●授業の概要 比較政治経済学に関する文献・先行研究の読解をしながら、政策決定事例について一次資料を収集・分析し、理論モデルの構築と検証を行います。		
●授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 論文作成の技法 第3回 テーマの設定と文献整理 第4回 基礎文献読解1-1：レイプハルト『民主主義対民主主義』1～4章 第5回 基礎文献読解1-2：レイプハルト『民主主義対民主主義』5～8章 第6回 基礎文献読解1-3：レイプハルト『民主主義対民主主義』9～12章 第7回 基礎文献読解1-4：レイプハルト『民主主義対民主主義』13～17章 第8回 基礎文献1の検討と関連研究の整理 第9回 リサーチクエスションの設定と評価 第10回 目次・構成内容の検討 第11回 基礎文献読解2-1：ピアソン『曲がり角にきた福祉国家』1～2章 第12回 基礎文献読解2-2：ピアソン『曲がり角にきた福祉国家』3～4章 第13回 基礎文献読解2-3：ピアソン『曲がり角にきた福祉国家』5～6章 第14回 基礎文献2の検討と関連研究の整理 第15回 先行研究の整理と検討 第16回 文献読解1-1：新川敏光(2005)『日本型福祉レジームの発展と変容』第1篇前半 第17回 文献読解1-2：新川敏光(2005)『日本型福祉レジームの発展と変容』第1篇後半 第18回 文献読解1-3：新川敏光(2005)『日本型福祉レジームの発展と変容』第2篇前半 第19回 文献読解1-4：新川敏光(2005)『日本型福祉レジームの発展と変容』第2篇後半 第20回 文献1の位置付けと研究手法 第21回 仮説と分析枠組み 第22回 資料収集と資料分析 第23回 文献2-1：Amable, The Diversity of Modern Capitalism 第1章 第24回 文献2-2：Amable, The Diversity of Modern Capitalism 第2章 第25回 文献2-3：Amable, The Diversity of Modern Capitalism 第3章 第26回 文献2-4：Amable, The Diversity of Modern Capitalism 第5章 第27回 文献2の位置付けと研究手法 第28回 理論構築と実証 第29回 理論の再検討 第30回 まとめ		
●準備学習の内容 各回に合わせた事前準備を行うこと。先行研究については回にかかわらず継続的に収集・検討すること。		
●テキスト アレンド・レイプハルト(2014)『民主主義対民主主義 [原著第2版]』勁草書房；クリストファー・ピアソン(1996)『曲がり角にきた福祉国家』未来社；新川敏光(2005)『日本型福祉レジームの発展と変容』ミネルヴァ書房；Bruno Amable(2003) The Diversity of Modern Capitalism, Oxford University Press.		
●参考書 ホリングスワース(2000)『制度の政治経済学』木鐸社；G. エスピーン・アンデルセン(2003)『転換期の福祉国家』早稲田大学出版部；David Hundt & Jitendra Uttam(2017) Varieties of Capitalism in Asia, Palgrave Macmillan. その他、授業内で適宜指示します。		
●学生に対する評価 報告(50%)、事前準備(50%)とし、総合的に評価します。報告内容については各回個別にコメントします。		